

海潮音

女子高校生
からわが家へ
はがきが届い
た。見知らぬ
名前。「また、
来年の参加を

お待ちしております」と書いてある。あ、そうか。あの時の、学生ボランティアの一人からだ◆今月初め、「第11回SUN-I-N未来ウオーク」に初参加し、倉吉市の白壁土蔵群周辺5kmを歩いた。かつて全国へ流通した「倉吉千歯」(農機具)や、幕末の大ロマン「倉吉淀屋」の歴史にふれ、高い精神性を感じ取り、生き返ったかのような一日であった◆ボランティアには中部地域の中高生や大学生、専門学校生ら約100人が参加した。会場やコースのあちこちで、安全誘導係を務め、県内外から参加した3千人を超えるウォーカーを笑顔でもてなした◆「こんにちは」「ごころうさま」。会話を交わすだけでも感激ものだが、はがきまでもらうとは。ただただ、うれしい。女子高校生が、机に向かって丁寧に書いている姿を想像すると、豊かな心が満ちてくる。未来ウォークが年々盛んになる理由がよく分かった◆この大会は、日本マーチングリーグへの加盟審査を受けている。サッカーが「J」を目指すようなものだという。同リーグへ仲間入りすると、全国のウォーカーに注目され、地域活性化へ弾みがつく。審査結果が待ち遠しい。